

(アンケート調査)

キッチンでエコ、していますか？

調査の目的：

地球温暖化に歯止めをかけるには、二酸化炭素の排出量を減らす必要があります。しかし、家庭からのCO₂排出量は、削減どころか増えています。

(財)ベターホーム協会は料理教室や出版活動を通し、環境にやさしい料理のしかたを教えています。今後の活動の参考にするため、一般の家庭で食品の買い物や料理をする際に環境にどれくらい配慮がされているか、意識と実態を調査しました。

調査対象：全国の20代～60代の週3回以上自宅で料理をする男女520名

	20代	30代	40代	50代	60代	計
男性	52	52	52	52	52	260
女性	52	52	52	52	52	260

調査時期：2010年5月

調査方法：インターネットによる調査

調査地域：全国

一般財団法人ベターホーム協会

150-8363 東京都渋谷区渋谷 1-15-12

2010年06月

調査のまとめ

環境に配慮して料理をしている人は、全体の約半数。

・週3回以上家庭で料理をしている男女のうち、料理をするときに環境を意識していると答えたのは51.2%。TVや新聞、インターネットなどで毎日のように環境問題がとりあげられていることを考えると、環境に配慮して料理をしている人は意外に少ない。

環境への危機意識が薄いのがいちばんの問題点。

・約半数の人が、環境に配慮して料理を行っていない理由は、何だろうか。

・突出して多かったのが、「環境問題に関心がない・意識が薄いから」で、41.5%。自分には関係ないことだと思っている人が少なくない。

・次に多かったのが、「具体的に何をしたらいいのかわからない」で、18.1%。

・「料理を作るのに精一杯で、余裕がない」という人も7.8%いた。

“キッチンでのエコ”ができていないのは、男性と若者。

料理経験の浅い人にも、ノウハウを広めていくことが重要。

・環境を配慮して料理を行っているとは答えたのは、男性は43.1%、女性は59.2%と女性の方が多い。また、食料品の買いものやキッチンでの行動で、環境にやさしい方法を挙げて実行しているかを尋ねた設問でも、ほとんどの項目で女性の方が実行率が高かった。

・年代別に比較すると、環境に配慮して料理をしている人は、20代は30.8%と平均値より20.4%少ない。年代を経るにしたがい、環境に配慮して料理をしているという人は多くなっている。

・これらは、性別や年代による環境への意識の差だけではなく、料理経験の差も影響していると思われる。男性は女性に比べて、若者は年配の人に比べて料理経験が浅い人が多いので、環境に配慮して料理をするだけの知識がなかったり、余裕がなかったりということがあるだろう。今後、環境にやさしい料理方法の具体的なノウハウを持つ者が、より多くの人に広め、伝えていく必要がある。

・料理は生活の中で欠かせないことであり、趣味として楽しむ人も多い。近年、料理をする男性が増えているが、年齢や性別に関係なく、「自分だけはいいだろう」という考えを捨て、皆が環境を意識して行動することが必須である。

1. あなたは家で料理をするとき、環境に配慮していますか。(数値は%)

	全体	男性	女性
している	51.2	43.1	59.2
していない	48.8	56.9	40.8

・環境に配慮して料理を行っている人は、約半数。男性より女性の方が、環境に配慮して料理をしている。

【年代別】

	している	していない
20代	30.8	69.2
30代	51.0	49.0
40代	53.8	46.2
50代	59.6	40.4
60代	60.6	39.4

・料理をするときに環境に配慮している人は、20代が最も少なく、約3割。年代が上がる、している人が増え、60代は20代の倍の6割の人がしている。

・未来を担っていく若い世代の値が低いのは不安であるが、20代では料理の経験値が低く、環境に配慮する術を知らないからということもあるだろう。

【「していない」と答えた人の理由】(数値は「してない」と答えた人を100%とした割合)

環境問題に関心がない・意識が薄い	41.5
具体的に何をしたらよいかかわからない	18.1
環境以外(時間、経済性、おいしさ)を優先	15.5
面倒	14.5
料理を作るのに精一杯で、余裕がない	7.8
その他	2.6

・料理をするときに、環境に配慮していない理由は、「関心がない」という回答がいちばん多かった。家庭からのCO₂排出量を減らしていくには、1人1人がまず環境への危機意識を持つところからはじめる必要がある。

・次に多いのが、「具体的に何をしたらいいかわからない」という人。環境に配慮した料理を教える料理教室が各地で開催されていたり、レシピ集なども出版されているが、知識を持つものがそのノウハウをよりいっそう広めていく必要性を感じる。

・「不自由はしたくない。(男性・61歳)」「不況でコスト優先の生活が染み付いている。(男性・33歳)」「子供がいて時間に追われるため、効率を優先する。(女性・25歳)」など、環境にやさしい料理は、「不便」「お金がかかる」「時間がかかる」のでできないと思っている人が多いようだ。

たしかに、便利で快適な生活を我慢したり、少し手間がかかったりということもあるが、環境に配慮して料理を行うと光熱費が安くなったり、おいしくできたり、時間をかけずにかんたんにできることも数多くあるので、できることから実践して欲しい。

- ・「料理中、余裕がない」という人も。確かに料理に慣れないうちは、レシピに書かれたとおりにこなすだけで精一杯で、環境のことまで気がまわらないということもあるだろう。
- ・その他の意見は、「何が環境にいいか微妙(女性・29歳)」「効果がないと思っている(男性・54歳)」などがあつた。

2. 食品の買いものをするとき、あなたが心がけていることを選んでください。(数値は%)

	全体	男性	女性
必要以上に買いすぎない	84.0	81.9	86.2
旬の食品を買う	71.2	60.0	82.3
マイバックを使う	70.0	63.5	76.5
なるべく近くで生産されたものを買う	48.5	36.5	60.4

・食品購入時に、環境に配慮している人がどれだけいるかを調べた。上記設問はすべて、環境にやさしい行動。

・7割の人がマイバックを使用。特に女性には高い浸透率。また、使わない理由としていちばん多かったのは、レジ袋をゴミ袋として再利用したいという声で、使わない理由の約30%だった。

・「旬の食品を買う」「なるべく近くで生産されたものを買う」という点に関しては、エコを意識するというより、おいしさや鮮度や安全性を意識して行っている人が多いかもしれない。ハウス栽培は多くのエネルギーを使うため、露地で作られた旬のものを選ぶことが、CO₂削減につながる。また、遠くから輸送されたものは輸送のために多くのエネルギーを使っているため、近くで生産されたものを購入することが、CO₂削減につながる。これらの項目については、男性の数値が女性に比べ特に低い。「輸入ものの方が安い」「食べたいものを我慢したくない」という気持ちもわかるが、便利で快適な生活を少し我慢することも必要だ。

3. あなたがしていることにつけてください。(数値は%)

	全体	男性	女性
鍋で湯を沸かすときふたをしている	76.5	73.8	79.2
冷蔵庫にもものを入れすぎないようにしている	71.3	65.0	77.7
ごはんは炊飯器で長時間(4時間以上)保温しないようにしている	70.2	65.8	74.6
調理の火を早めに止めて、余熱で仕上げている	61.5	47.7	75.4
鍋の底の水滴をふきとってからコンロにのせている	57.9	46.2	69.6
揚げもので使った油は、炒めものなどで少しずつ使い、使い切る	52.3	49.2	55.4
同じ湯で順に別のものをゆでるなど、計画的に調理をしている	50.0	43.5	56.5
お皿の汚れは、布やへらなどで拭いてから洗っている	45.2	42.3	48.1
生ゴミはぬらさないようにしている	41.7	42.3	41.2
季節によって冷蔵庫の設定温度を変えている	39.2	36.9	41.5
湯を沸かすとき、コップや器で必要な量をはかってから沸かす	34.8	35.4	34.2
鍋を布で包んだり、専用の鍋を使ったりして、保温調理をしている	20.8	18.1	23.5

・調理、あとかたづけ、冷蔵庫の設定など、キッチンで環境にやさしい行動を実行している人がどれだけいるかを調べた。上記設問はすべて、環境にやさしい行動。

・「保温調理」は、専用の鍋を使うのが一般的なので、実行している人が少ないのは納得できる。しかし、同じく実行している人が少なかった「お皿の汚れを拭いてから洗う」「生ゴミをぬらさない」「冷蔵庫の設定温度を変える」「湯をわかすとき必要な量を沸かす」という項目は、時間も手間もお金もかからず、かんたんにできること。しかし、半数以上の人を実行していなかった。

・ほとんどの項目で、女性の方が高い実行率。この調査は、週 3 回以上料理をするという人を対象に行っているが、これは、単に男女の環境に対する意識の差というだけではなく、女性の方が料理に関する知識や経験があるので、情報も得やすく、行動に移す余裕があるからではないだろうか。

昨今、男性が料理をするというのは、珍しいことではなくなっている。毎日の料理を作る人、ホームパーティーで腕を奮う人、節約のために弁当を作る人なども多く話題になっているが、おいしさや経済性、効率を求めるほか、一歩進んで環境にも配慮して料理を行う努力をして欲しい。

以上